

## 編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌  
編集委員長  
西 信 雄

会員の皆様には、平素より本誌の発行につきましてご協力をいただき感謝申し上げます。編集委員会では公衆衛生学的意義のある論文を皆様にお届けできるよう審査を行っています。本号では以下についてお知らせします。

### 1. 支援的査読

第62巻4号（2015年4月発行）の「編集委員会からのお知らせ」で紹介しましたように、「論文中の字句や形式的な点については過度に修正を求めない」ことを以前編集委員会で申し合わせました。その後、支援的査読のあり方について編集委員会であらためて検討しましたので、追加で三点を紹介します。

一点目は、原稿の種類についてです。第63巻4号（2016年4月発行）の「編集委員会からのお知らせ」にもあるように、2015年11月の投稿規定の改定により短報と研究ノートを廃止しました。今回あらためて、著者が希望した原稿の種類で査読することを確認しました。原稿の種類については基本的に審査の過程で編集委員会から変更を求めることはいたしません。投稿に当たっては、投稿規定等を十分に確認した上で原稿の種類をお選びください。二点目は、論文の内容や構成は著者の意図、論文の体裁を尊重し、査読意見は採択に必要なものに限ることとしました。三点目は、査読では問題点を指摘するだけでなく、採択レベルに達するような改善策を提案することとしました。

### 2. 審査日数と採択率

編集委員会では迅速な審査に努めています。本誌に掲載されている受付日と採用日から審査日数を計算しますと、第62巻（2015年）掲載の45論文について平均値が233.8日（中央値：213日、範囲：69日-651日）であったのが、第63巻（2016年）掲載の47論文では平均値が225.1日（中央値：198日、範囲：52日-895日）と、少し短くなっています。この審査日数の短縮には、著者と編集委員会のいずれもが貢献していると考えられますが、上記のように過度に修正を求めないことも効果を現しているように思います。

また、2015年と2016年に投稿された論文には最終的な採否が決定していないものもありますが、同じ期間に投稿された論文数と採用された論文数から単純に採択率（分母と分子に包含関係がありませんので正しくは採択比です）を2017年3月末時点で計算しますと、2015年が $46/93 = 49.5\%$ 、2016年が $49/77 = 63.6\%$ でした。皆様も、採択率が意外と高いことに驚かれることと思います。なお、採用論文について初回の審査期間の平均を計算しますと、2015年（46論文）は受付日の37.8日後に初回の審査結果を送信していたのが2016年（49論文）は35.1日後に送信しており、上記の審査日数と同様に少し短くなっています。

### 3. 優秀論文賞

編集委員会では昨年初めて、谷原真一副委員長を作業部会長として優秀論文賞の選定を行いました。具体的には、2015年発行の第62巻に掲載された45論文から3論文を選定して、昨年10月に開催された第75回日本公衆衛生学会総会で理事長と編集委員長の連名で優秀論文賞の表彰を行いました。賞状だけでなく副賞もあり、受賞者の方々にはサプライズとなったようでした。今後も毎年優秀論文賞の表彰を予定していますので、奮って投稿いただきますようお願いいたします。